

2025 年度 看護職員の負担軽減及び処遇の改善に資する計画

課題	看護師の業務内容の見直し・整備により、看護補助者への看護業務のタスクシフトを推進する
現状	地域包括ケア病棟の看護補助体制充実加算算定に伴い看護補助者の充実配置が実現できた。看護補助者の採用と定着に向けた取り組みを実践し人材の確保につながっている。一般病棟への看護補助者配置数も 2025 年度は前年度比+2.0(3.5⇒5.5)拡大できる予定である。看護部では業務委員会を中心に看護補助者へのタスクシフト/シェアを推進しており、療養上の世話の判断基準の見直しや新たなタスクシフト業務を洗い出して手順書の整備や教育の準備を実施している。看護補助者によっては内視鏡の洗浄業務のように独占業務となっているものもあり、業務委譲できる職員の拡大が必要である。また、タスクシフトの成果の見える化をすることで効率的・効果的な人材活用の現状を評価していく必要がある。
指標	新たな業務の委譲や業務可能な人材を拡大することができる
水準 指標 要件	1. 新たな看護業務をタスクシフトできる 2. 役割業務の拡大を図ることができる。(内視鏡洗浄担当者の拡大) 3. 5 階病棟のタスクシフト実績が 2024 年度の 1.5 倍となる
計画	1. 看護部業務委員会で新たなタスクシフトを検討し手順書整備や教育を担い拡大する 2. 業務拡大実施状況のデータ収集と分析 3. 内視鏡洗浄業務の教育・トレーニング 4. タスクシフト実施データの収集と分析・評価、フィードバック
評価	